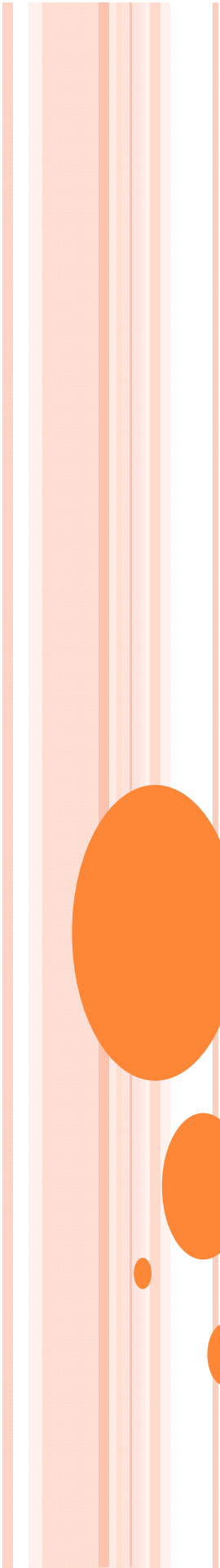


岐阜大学財務レポート 2016

岐阜大学を支えてくださる皆様へ

平成27事業年度 2015年4月1日
～ 2016年3月31日





財務レポートについて

平成16年度からすべての国立大学が国立大学法人となり、岐阜大学では運営を支えてくださる多くの皆様に対して、より一層の説明責任を果たしていくことが重要と考えております。

このたび、平成28年6月に文部科学大臣により承認を受けた平成27事業年度財務諸表をもとに、本学の財務状況をわかりやすくお伝えすることを目的に「財務レポート」を作成いたしました。

このレポートが皆様にとりまして、岐阜大学をご理解していただく一助となることを願っております。



大学全景(柳戸地区)と周辺地域を望む

目次

・ 国立大学法人与会計制度について	2
-------------------	---

財務ハイライト

・ 貸借対照表の概要	5
・ 損益計算書の概要	7
・ キャッシュ・フロー計算書の概要	8
・ 業務実施コスト計算書の概要	9
・ (参考情報)	10

岐阜大学を支えてくださる皆様へ

・ 教育関連事業について	13
・ 産官学連携・地域貢献について	15
・ 附属施設について	17
・ 附属病院について	18
・ 岐阜大学基金について	19
・ 法人運営について	20

(参考情報) 国立大学法人における会計処理について

・ 国立大学法人会計について	23
・ 国立大学法人の利益について	25
・ 附属病院に関する会計処理について	26

国立大学法人と会計制度について

国立大学法人制度

国立大学は平成16年度より法人化されました。法人化以前は、文部科学省の内部組織であったため、柔軟な組織運営や業務の効率化という点で問題が生じており、国立大学法人制度では、これらの問題点を克服できるように、弾力的な組織・運営が可能となっています。

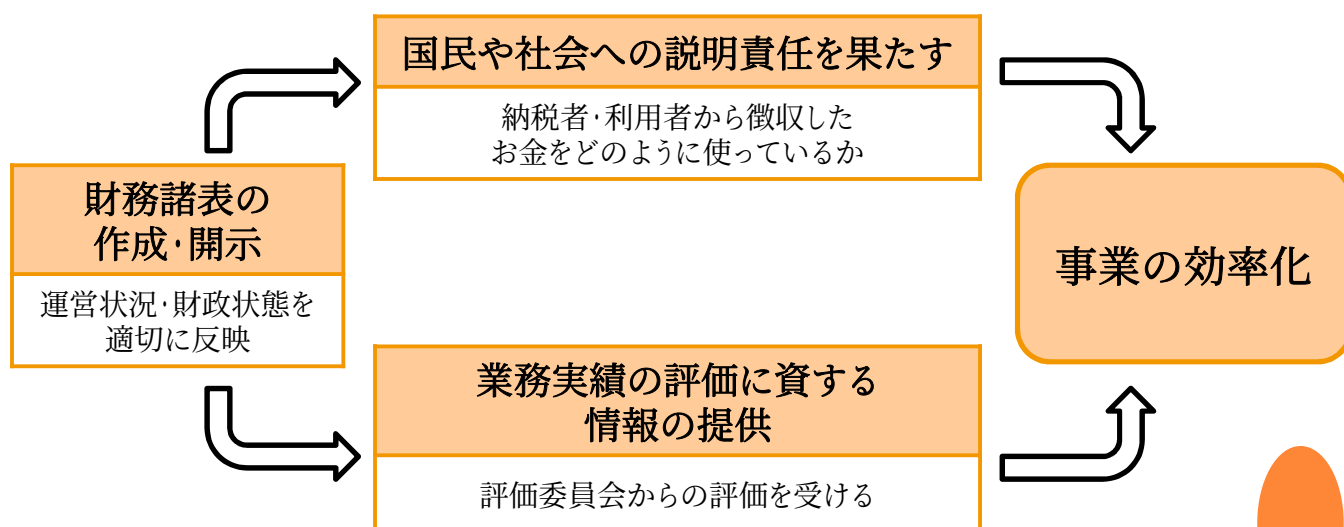
一方、国立大学法人は、国民の皆様の税金に支えられて運営されるため、運営の透明性を確保するとともに業務実績の適正な評価を受けるために、財務情報をはじめとした情報開示制度が整備されています。

制度の概要（文部科学省「国立大学法人法の概要」より）

- ① 「大学ごとに法人化」し、自立的な運営を確保
- ② 「民間的発想」のマネジメント手法を導入
- ③ 「学外者の参画」による運営システムを制度化
- ④ 「非公務員型」による弾力的な人事システムへの移行
- ⑤ 「第三者評価」の導入による事後チェック方式に移行

国立大学法人会計の意義

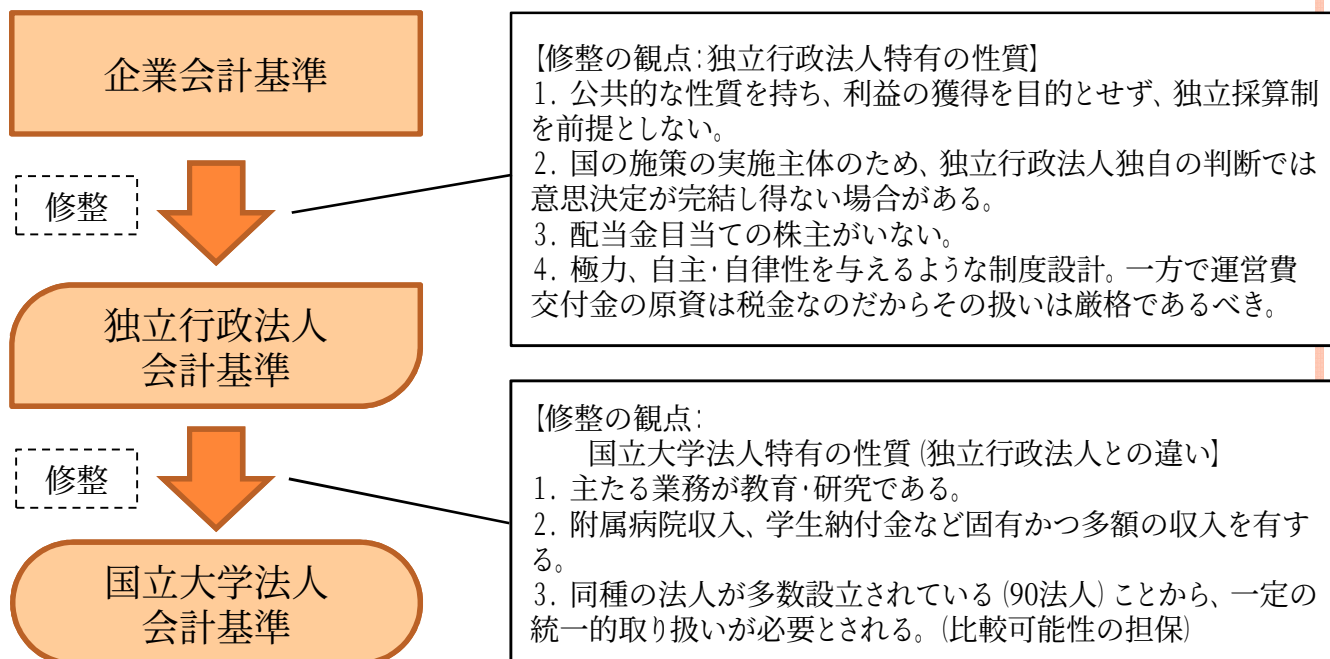
国立大学法人会計の意義は、財務諸表の作成・開示により、国民や社会への説明責任を果たし、同時に業務実績の適正な評価に資する情報を提供することにより、事業の効率化に役立つことにあります。



国立大学法人会計制度

国立大学法人化に伴い、それまでの官庁会計ではなく、国立大学法人独自の会計基準である「国立大学法人会計基準」が作成されました。

「国立大学法人会計基準」は、企業会計をベースに、先行して定められた「独立行政法人会計基準」を参考としつつ、国立大学の特性を踏まえて制定された基準です。



青木志帆,清水至,島田正寛,制度とおカネのよもやま話—国立大学法人会計入門,学校経理研究会,2015,112p.

国立大学法人会計の特徴

先に述べたように、国立大学法人会計は、国立大学の特性を踏まえて制定されたものであるため、企業会計とは異なった取り扱いも存在します。

(例)

●資金受け入れ時に債務計上

運営費交付金や授業料などは、直ちに収益になるわけではなく、当期における授業や研究を行わなければならない義務（債務）を負う財源として、一旦負債として計上します。これを、期間の経過や業務の実施に伴い収益化します。

●減価償却に一般企業とは異なる取り扱いがある

企業会計では、設備の費消部分は費用として認識し、更新資金は内部留保しますが、国立大学法人会計ではこれと異なる扱いをすることがあります。

●利益剰余金について

国立大学法人の利益剰余金は、現金が残っていない利益である積立金、現金が残っており、承認を受け翌期以降に使うことのできる利益である目的積立金、及び当期末処分利益とに分けられます。また、これらの取り扱いや発生する要因にも国立大学法人特有のものがあります。

詳細については、22ページからの「国立大学法人における会計処理について」をご参照ください。

財務ハイライト



医学部と附属病院



貸借対照表の概要

○貸借対照表とは

決算日(3月31日)における、国立大学法人の資産・負債・純資産がどのような状態(財政状態)かを表示し、明らかにするものです。

貸借対照表【資産の部】

(単位:百万円)

	平成26年度	平成27年度	増減額
(固定資産)			
土地	40,524	40,495	△ 29
建物	41,592	39,804	△ 1,788
構築物	1,367	1,250	△ 117
工具器具備品	4,222	5,798	1,576
図書	4,966	4,962	△ 4
投資有価証券	1,505	1,595	90
その他固定資産	1,016	522	△ 494
(流動資産)			
現金及び預金	6,869	6,434	△ 435
未収附属病院収入	3,183	3,379	196
未収入金	506	655	149
医薬品及び診療材料	265	269	4
有価証券	200	499	299
その他の流動資産	120	167	47
資産合計	106,340	105,835	△ 505

既取得資産に係る
使用年数経過に
伴う資産価値の減
少(減価償却)

附属病院医療情
報システム等を
リースにより取得
したための増加

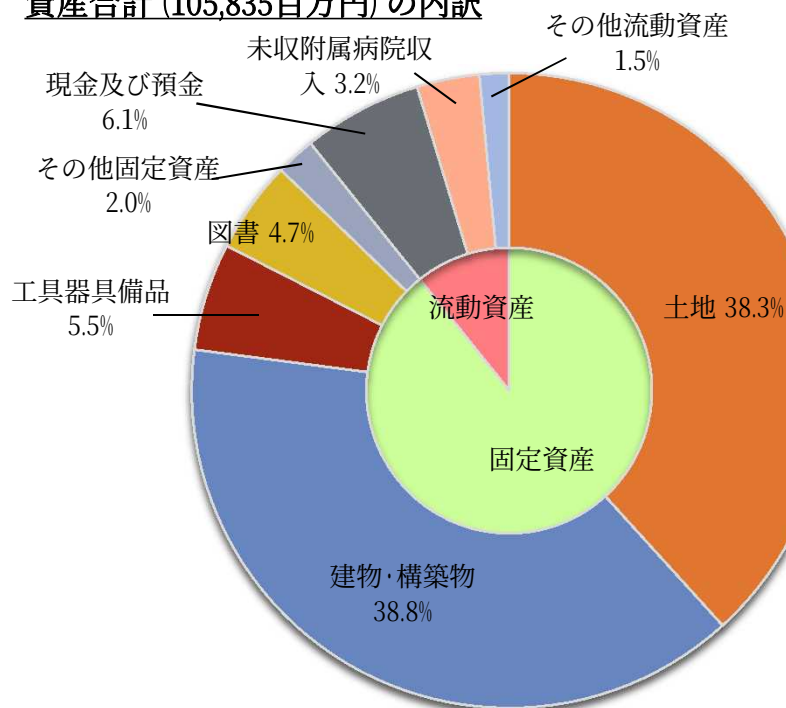
債券の購入や株式
の寄附による増加

債券の購入や施設
費の未入金に伴う
減少

2月、3月の稼働額
増(26年度比)によ
る増加

※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

資産合計(105,835百万円)の内訳



【資産の部について】

資産合計は前年度比約5億円の減少となっています。主な減少・増加要因は以下のとおりです。

(減少要因)

・資産の取得はあったものの、経年による減価償却が進行したことにより、建物が約17億9千万円減少。
(建物減価償却費 約29億1千万円)
・債券を購入したことや施設費の未入金分があること等により、現金及び預金が約4億4千万円減少。

(増加要因)

・附属病院医療情報システム等のリース資産を約26億1千万円取得。
・27年度末の病院稼働が良好であったことにより、未収附属病院収入が約2億円の増加。



貸借対照表【負債・純資産の部】

(単位:百万円)

	平成26年度	平成27年度	増減額
(固定負債)			
資産見返負債	11,058	10,066	△ 992
財務・経営センター債務負担金	23,676	21,349	△ 2,327
長期リース債務	173	2,247	2,074
長期PFI債務	414	252	△ 162
その他固定負債	475	587	112
(流動負債)			
運営費交付金債務	232	0	△ 232
寄附金債務	2,475	2,716	241
前受受託研究費等	365	316	△ 49
リース債務	520	501	△ 19
一年以内返済債務負担金	2,350	2,326	△ 24
未払金	2,018	2,237	219
その他の流動負債	2,111	1,887	△ 224
負債 計:	45,873	44,489	△ 1,384
資本金			
資本金	52,932	52,911	△ 21
資本剰余金	2,008	1,864	△ 144
利益剰余金			
目的積立金 (教育研究診療環境整備及び組織運営改善積立金)	25	0	△ 25
積立金	4,952	5,500	548
当期末処分利益	547	1,055	508
その他有価証券評価差額金	0	13	13
純資産 計:	60,466	61,345	879
負債・純資産合計:	106,340	105,835	△ 505

1年以内債務負担金(流動負債)への振替による減少

リース資産取得にともなう負債の計上により増加

第2中期計画期間最終年度のため、運営費交付金債務は0となる

正木宿舎の土地の譲渡により減少

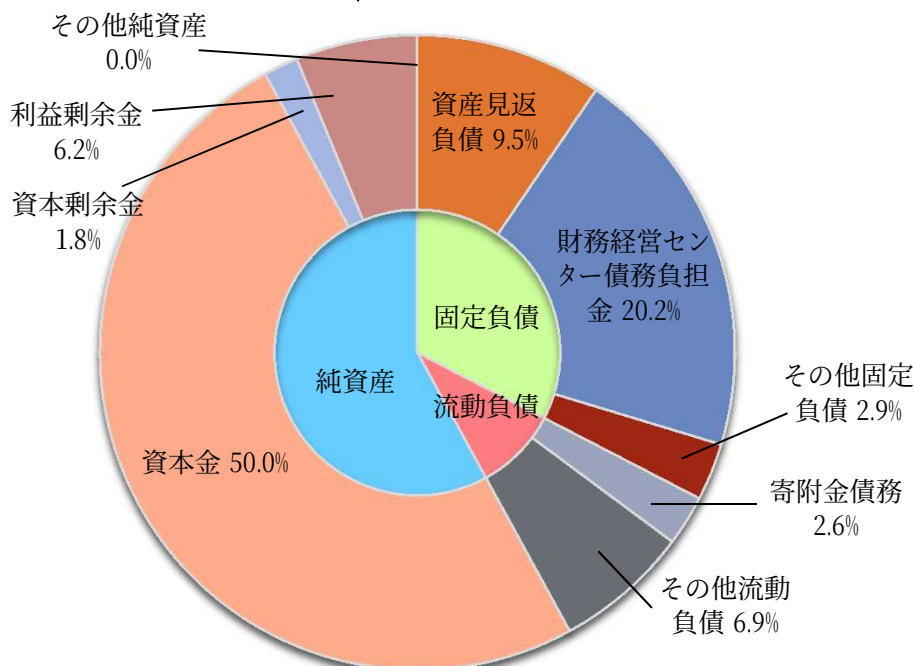
現物出資された資産等の減価償却により減少

前期末処分利益の積立金計上による増加

会計上の形式的・観念的利益の累計

※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

負債・純資産 合計(105,835百万円)の内訳



【負債・純資産の部について】

負債合計は前年度比約13億8千万円の減少となっています。主な減少・増加要因は以下のとおりです。

(減少要因)

附属病院の移転・新築に伴い借り入れた、国立大学財務・経営センター債務負担金が、返済の進行により約23億5千万円減少。

(増加要因)

附属病院医療情報システム等の更新により、リース債務(長期リース債務含む)が約20億6千万円増加。

純資産合計は前年度比約8億8千万円の増加となっています。

27年度期首に約25百万円を計上していた目的積立金(経営努力による剰余金)は、工学部の実験台等の更新経費として取り崩しました。

その他有価証券評価差額金は、寄附により取得した株式の期末時価と取得価額との差額です。



損益計算書の概要

○損益計算書とは

一事業年度(4月1日から翌年3月31日まで)における国立大学法人の費用と収益を対応させて、その損益(運営状況)を表示し、明らかにするものです。

損益計算書

(単位:百万円)

	平成26年度	平成27年度	増減額
(経常費用)			
業務費	37,538	37,941	403
教育経費	1,941	2,128	187
研究経費	1,870	1,667	△ 203
診療経費	12,853	12,962	109
教育研究支援経費	853	656	△ 197
受託研究・事業費等	1,523	1,793	270
人件費	18,494	18,732	238
一般管理費	1,108	1,078	△ 30
財務費用等	339	312	△ 27
経常費用 計:	38,986	39,332	346
(経常収益)			
運営費交付金収益	11,780	11,420	△ 360
学生納付金収益	4,117	4,255	138
附属病院収益	18,517	19,580	1,063
受託研究・寄付金等収益	2,466	2,624	158
資産見返負債戻入	1,214	1,077	△ 137
その他収益	1,436	1,472	36
経常収益 計:	39,533	40,430	897
経常利益	547	1,098	551
臨時損失	0	47	47
臨時利益	0	4	4
当期総利益	547	1,055	508

費用を教育、研究
など目的別に分類

受入額増加に伴う
執行額の増加

給与改定による給
与・賞与の増加

借入金返済の進行
による利息の減少

交付額の減少等
による収益化額の減
少

外来診療単価、入
院患者数の増加

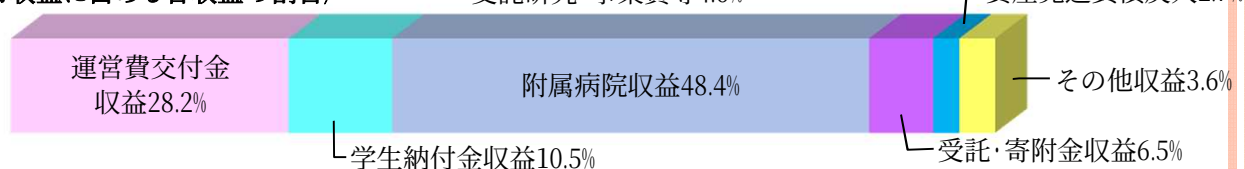
受託研究の受入額
増加に伴う収益化
額の増加

※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

(経常費用に占める各費用の割合)



(経常収益に占める各収益の割合)



[経常費用]

経常費用は前年度比約3億5千万円増となっています。主な増加・減少要因は以下のとおりです。

(増加要因) 受託研究、受託事業の受入額の増加に伴い、執行額も増加したため、受託研究・事業費が約2億7千万円増加。

(減少要因) 生命科学総合研究支援センター機器分析分野の移転により26年度に計上された業務委託費分の減少等により、教育研究支援経費が約2億円減少。

[経常収益]

経常収益は前年度比約9億円増となっています。主な増加・減少要因は以下のとおりです。

(増加要因) 外来診療単価の増、入院患者数の増により、附属病院収益が約10億6千万円増加。

受託研究の受入額が増加したことにより受託研究収益が約2億4千万円増加

(減少要因) 運営費交付金の交付額の減少等に伴い、執行額が減少し、併せて運営費交付金収益も減少(約3億6千万円減)



キャッシュ・フロー計算書の概要

○キャッシュ・フロー計算書とは

「お金(キャッシュ)」の「流れ(フロー)」に着目し、一会計期間における資金の出入りを「業務活動によるキャッシュ・フロー」、「投資活動によるキャッシュ・フロー」、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の3つに分けて表示したものです。

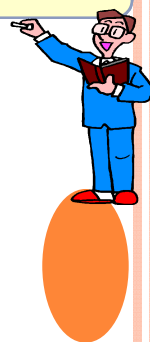
(単位: 百万円)

	平成26年度	平成27年度	増減額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	4,424	3,836	△ 588
原材料等支出	△ 14,195	△ 14,607	△ 412
人件費支出	△ 18,650	△ 18,975	△ 325
その他の業務支出	△ 916	△ 988	△ 72
運営費交付金収入	11,677	11,207	△ 470
学生納付金収入	4,064	4,095	31
附属病院収入	18,191	19,373	1,182
受託研究・寄付金等収入	3,254	3,193	△ 61
その他収入	866	825	△ 41
預り科学研究費補助金等の増	131	△ 287	△ 418
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	472	△ 408	△ 880
有価証券の取得による支出	△ 503	△ 403	100
有価証券の償還による収入	500	200	△ 300
定期預金等の預入による支出	△ 10,000	△ 11,600	△ 1,600
定期預金等の払戻による収入	12,500	12,100	△ 400
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	△ 3,884	△ 1,516	2,368
有形固定資産売却による収入	0	31	31
国立大学財務・経営センターへの納付による支出	0	△ 14	△ 14
施設費による収入	1,837	768	△ 1,069
利息及び配当金の受取額	23	26	3
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,453	△ 3,363	90
国立大学財務・経営センター債務負担金の返済による支出	△ 2,368	△ 2,350	18
長期借入金の返済による支出	△ 5	△ 5	0
PFI・リース債務の返済による支出	△ 745	△ 713	32
利息の支払額	△ 334	△ 293	41
IV 資金増加額(又は減少額) (I + II + III)	1,443	64	△ 1,379
V 資金期首残高	4,925	6,369	1,444
VI 資金期末残高 (IV + V)	6,369	6,434	65

【業務活動による
キャッシュ・フロー】
(増加要因)
外来診療単価、入院患者数の増による附属病院収入の増加
(減少要因)
給与改定による人件費支出の増加
運営費交付金受入額の減少

【投資活動による
キャッシュ・フロー】
(増加要因)
資産取得による支出の減少
(減少要因)
施設費交付額の減少

【財務活動による
キャッシュ・フロー】
(増加要因)
借入金の返済額が減少



※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

※キャッシュ・フロー計算書の「資金期末残高」には定期預金が含まれないため、貸借対照表の現金とは一致していません。

国立大学法人等業務実施コスト計算書の概要

○国立大学法人等業務実施コスト計算書とは

国立大学の業務運営に関して納税者である国民の皆様にご負担いただくコストを集約し算定したものととなります。当該コストにつきましては、損益計算書を基礎としつつ、国民の皆様の負担とならない自己収入などを控除し、損益外処理や機会費用について加算して算定しております。

(単位: 百万円)

	平成26年度	平成27年度	増減額
I 業務費用	12,798	11,811	△ 987
(1) 損益計算書上の費用	38,986	39,379	393
(2) (控除) 自己収入等	△ 26,187	△ 27,568	△ 1,381
II 損益外減価償却等相当額 (※1)	1,301	1,283	△ 18
III 損益外減損損失相当額 (※1)	-	-	-
IV 損益外除売却差額相当額 (※1)	0	5	5
V 引当外賞与増加見積額 (※1)	9	45	36
VI 引当外退職給付増加見積額 (※1)	△ 637	15	652
VII 機会費用 (※2)	220	0	△ 220
VIII 国立大学法人等業務実施コスト	13,692	13,161	△ 531

※百万円未満切り捨てのため、合計は一致しない場合があります。

【参考】国民1人あたりの負担額

業務実施コスト 13,161百万円 ÷ 総人口127,029千人 = **約 104 円**

(総務省統計局発表の人口推計[総人口] (平成28年2月1日現在確定値) を用いています。)

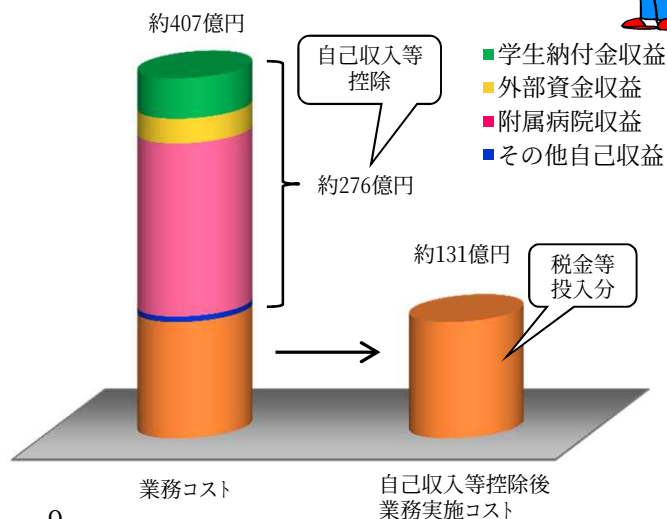
国立大学法人実施コストは、約5億3千万円減の約131億6千万円となっています。主な増加・減少要因は以下のとおりです。

(増加要因) 運営費交付金により財源措置される退職給付の見積額が増加したため

(減少要因) 附属病院収益をはじめとした自己収入が約13億8千万円増加したため、業務実施コストが減少

(※1) 損益外、引当外… 「損益計算書」には計上されませんが、国が負担するコストであるため、「業務実施コスト計算書」には計上されます。

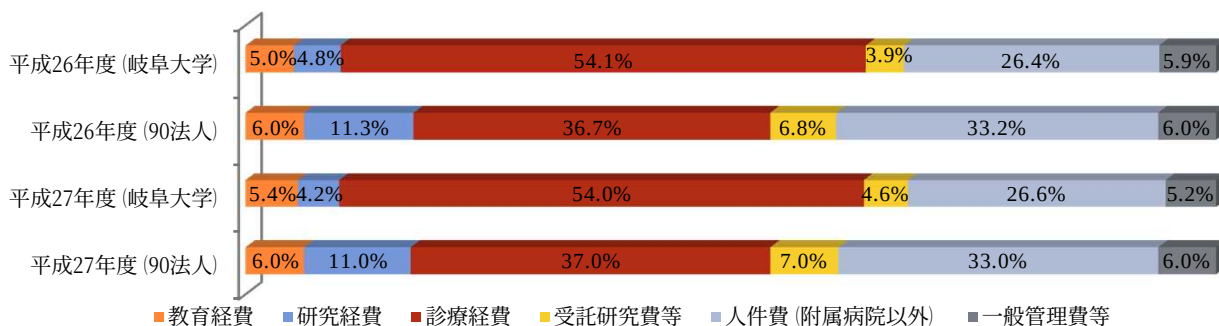
(※2) 機会費用 … 犠牲にされる経済的資源を、他の代替的用途に振り向けたなら得られるはずの逸失利益をいいます。



(参考情報)

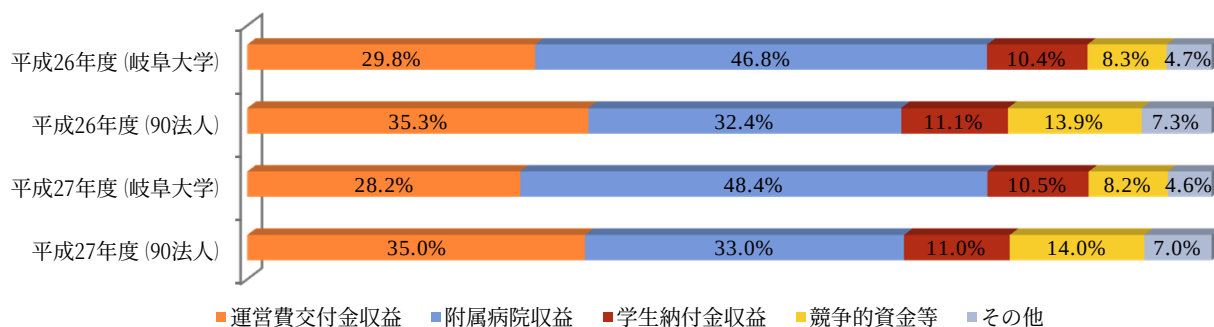
文部科学省「国立大学法人等の平成26・27事業年度決算について」、各国立大学法人「平成27事業年度財務諸表」を基に作成

○経常費用に占める各費用の割合の比較 (国立大学法人等 (90法人))



※診療経費には附属病院の教職員人件費を含む

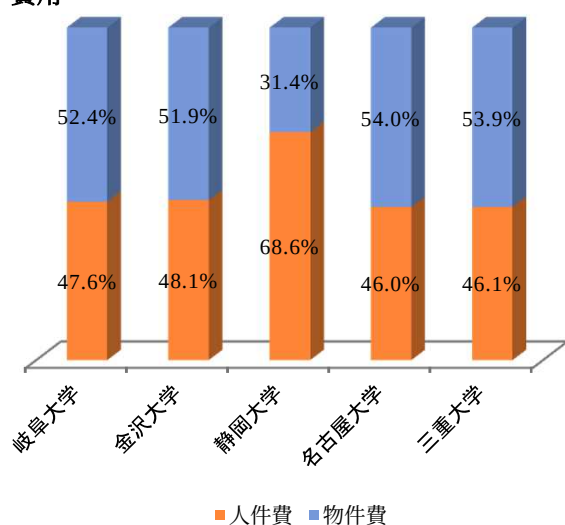
○経常収益に占める各収益の割合の比較 (国立大学法人等 (90法人))



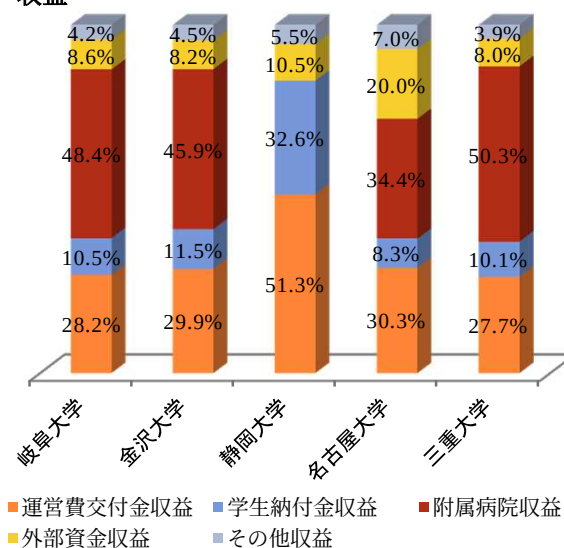
※競争的資金は、補助金等収益、受託研究等収益等、寄付金収益、研究関連収益の合計額である。

○東海地区国立大学法人の各費用・収益の割合

費用



収益



※外部資金収益には、受託研究等収益、受託事業等収益、寄付金収益及び研究関連収益の他、施設費収益及び補助金等収益が含まれている。

セグメント別業務損益

(単位:千円)

区 分	教育学部	附属学校	地域科学部	医学部	工学部	応用生物科学部	附属病院	本部 (附属施設等)	合計
業務費用									
業務費	1,382,528	540,918	605,652	2,969,500	3,743,964	2,681,389	21,665,125	4,352,694	37,941,773
教育経費	98,339	95,177	41,380	155,617	316,333	507,873	33,620	880,301	2,128,643
研究経費	50,279	112	26,994	346,219	469,477	356,653	221,047	196,978	1,667,761
診療経費	—	—	—	—	—	—	12,962,763	—	12,962,763
教育研究支援経費	—	—	—	—	21	—	—	656,689	656,710
受託研究費	12,155	—	123	498,555	541,064	168,911	99,201	150,583	1,470,595
受託事業費	5,378	10	—	27,986	51,986	116,934	82,114	38,073	322,484
人件費	1,216,375	445,618	537,153	1,941,121	2,365,080	1,531,016	8,266,378	2,430,068	18,732,812
一般管理費	30,896	37,012	18,432	139,632	122,466	95,361	158,620	475,754	1,078,177
財務費用	—	519	—	2	12,655	103	292,579	5,146	311,007
雑損	—	—	—	23	280	52	292	452	1,102
小 計	1,413,425	578,450	624,084	3,109,159	3,879,367	2,776,907	22,116,618	4,834,047	39,332,060
業務収益									
運営費交付金収益	1,142,275	—	519,134	1,514,751	2,262,823	1,353,043	2,789,749	1,838,629	11,420,407
学生納付金収益	714,002	2,036	305,736	682,079	1,816,286	732,792	—	2,515	4,255,449
附属病院収益	—	—	—	—	—	—	19,580,615	—	19,580,615
受託研究等収益	12,980	—	63	474,090	507,909	163,847	98,842	221,856	1,479,590
受託事業等収益	5,405	10	—	28,456	51,986	118,475	82,321	35,829	322,484
補助金等収益	2,466	—	1,400	11,559	94,049	12,608	286,926	86,525	495,535
寄附金収益	13,021	14,369	3,393	476,804	113,747	57,970	52,750	90,239	822,299
施設費収益	—	—	—	22	110,106	144	—	43,358	153,632
資産見返負債戻入	27,370	10,619	9,673	108,974	105,784	95,725	396,073	322,991	1,077,213
財務収益	—	—	—	—	—	—	—	23,952	23,952
雑益	1,454	—	—	948	328	370,899	9,483	415,990	799,104
小 計	1,918,977	27,036	839,402	3,297,687	5,063,020	2,905,506	23,296,763	3,081,890	40,430,285
業務損益	505,551	-551,413	215,317	188,527	1,183,653	128,599	1,180,145	-1,752,157	1,098,224

連合創薬医療情報研究科は医学部に、連合農学研究科、連合獣医学研究科は応用生物科学部に含めています。
 応用生物科学部の雑益には、家畜診療収入(動物病院)を329,160千円を含みます。

岐阜大学を支えてくださる皆様へ



緑豊かなキャンパスと応用生物科学部校舎



教育関連事業について

教育に係る経費

◆平成27年度における教育に係る経費の総額は約84億1千万円となりました。

この教育に係る経費を学生実員で割り戻すと、一人あたりにつき約116万円となり、これらの経費が教育目的として使用された金額です。

なお、平成27年度は、工学部校舎改修の修繕費などの増加により、平成26年度と比較して増加（教育に係る経費：約2億円増）しました。

教育に係る経費

(単位：千円)

教育経費	2,128,643
教育研究支援経費	328,355
教育に係る人件費	5,955,794
合計	8,412,792

学生一人あたりの教育に係る経費	1,155千円
＝ 教育に係る経費 (8,412,792千円) / 学生実員 (7,283人)	

26年度学生一人あたりに係る経費・・・1,132千円

- ※ 教育経費とは授業や課外演習などの教育活動を目的として要した費用で
- ※ 教育研究支援経費とは図書館や総合情報メディアセンターなどで教育や研究の支援を目的として要した費用であり、教育支援相当額として半額を算定しております
- ※ 教育に係る人件費は、研究施設を除き、附属病院については教育と診療との業務の割合から算定し、またそれ以外の施設については約半額を算定しております

学生納付金

◆平成27年度の入学者は、学部学生1,292人、大学院生631人であり、学生数（平成27年5月1日現在）は学部生5,710人、大学院生1,573人の計7,283人です。

学生の皆様からご納付いただく料金は、入学試験時の検定料、入学時の入学料、毎年度の授業料であり、平成27年度におけるこれら学生納付金収益は約42億6千万円（経常収益の約10.5%）でした。

学生納付金

(単位：円)

	検定料	入学料	授業料 (年額)
学部	17,000	282,000	535,800
大学院研究科	30,000	282,000	535,800

学生納付金依存度	10.5%
＝ 学生納付金収益 (4,255,449千円) / 経常収益 (40,430,285千円)	

26年度学生納付金依存度・・・10.4%

入学料・授業料の免除

◆本学では、経済的理由などで入学料・授業料の納付が困難な場合において、納付金の免除（半額若しくは全額）または納付を猶予する制度が設けられています。

平成27年度においては、入学料約1千4百万円、授業料は約3億9千万円の免除が適用されました。

入学料・授業料免除額

		平成26年度	平成27年度
免除額	授業料	390,399千円	387,184千円
	入学料	11,280千円	13,902千円
免除率 (決定数/申請数)	授業料	89.8%	89.0%
	入学料	28.1%	28.0%
納付金免除割合 (免除額/入学・授業料収益)	授業料	11.4%	10.9%
	入学料	2.0%	2.5%

TA・RA制度

◆ 本学ではTA・RAとして教育・研究補助業務に大学院生を採用し、これらの業務に対して手当を支給することで大学院生の処遇の改善を図るとともに、教育者・研究者としての能力向上の機会提供を行っております。

・TA (Teaching Assistant) は、実習や授業における実験など、教育に関する補助的業務に携わることで、教育者としての能力の向上を図っております。

・RA (Research Assistant) は、大学院研究科における研究プロジェクトなどにおいて、研究補助業務に携わることで、研究者としての能力の向上を図っております。

TA・RA概要

	平成26年度		平成27年度	
	採用人数	支払実績	採用人数	支払実績
TA	2,742人	32,049千円	2,732人	33,963千円
RA	742人	29,125千円	853人	31,860千円
合計	3,484人	61,174千円	3,585人	65,823千円

※採用人数は1年を通じての延べ人数となっています

公開講座

◆ 本学では毎年、地域の皆様を対象とした様々な公開講座を開催しております。平成27年度には有料・無料の講座併せて28の講座を開催し、延べ1,164人の受講者の方にご参加いただきました。

公開講座では、小・中学生とその保護者の方を対象とした家族参加型の講座や、高校生を対象とした大学講義体験型、一般社会人や技術者の方を対象とした専門的な講座など、様々な講座が企画されております。

公開講座概要

	平成26年度		平成27年度	
公開講座数	25		28	
	有料 3	無料 22	有料 3	無料 25
延べ受講者数	929人		1,164人	
支出額	4,418千円		4,127千円	
受講料収入	509千円		605千円	

特色ある教育・研究プログラム

◆ 科学技術人材育成費補助金 (旧科学技術振興調整費) は、科学技術活動の基盤となる人材の育成・確保や社会の多様な場における活躍促進により、研究活動を活性化するために必要な施策に活用するものです。本学は、各種プロジェクトに積極的に応募し、採択されています。採択された事業は、国からの財政支援を受けることができます。

なかでも、「地域循環型女性研究者育成・支援プログラム」は、27年度から新しくスタートした事業です。本学が代表機関となり、共同実施機関である岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社とともに、各々の特徴を活かして連携する取り組みです。共同研究を通じて女性研究者の研究力を強化するとともに、地域内での女性研究者の流動性を高めつつ、安定した活躍の場を確保することによって、地方創生にも繋げるプログラムです。女性研究者比率向上と女性研究者の上位職登用を積極的に進めることを目指しています。

取組名称	事業期間	H27年度受入額
地域循環型女性研究者育成・支援プログラム	平成27～32年度	24,341千円
テニュアトラック普及定着事業	平成23～30年度	14,200千円

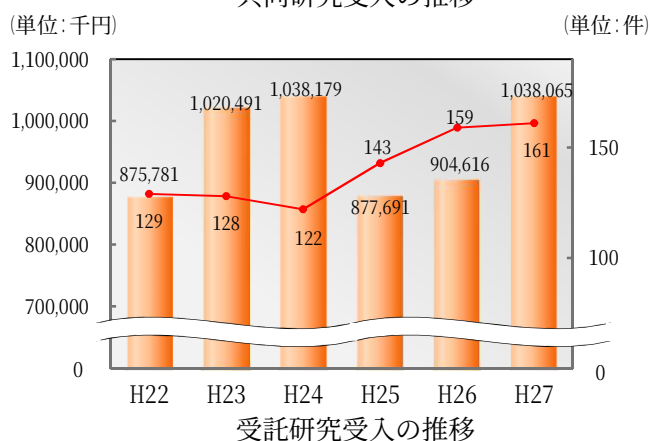
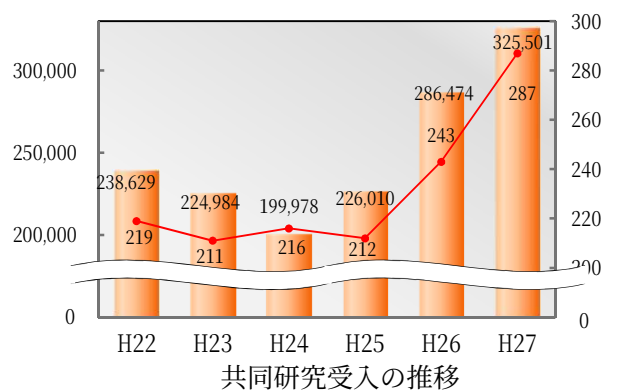
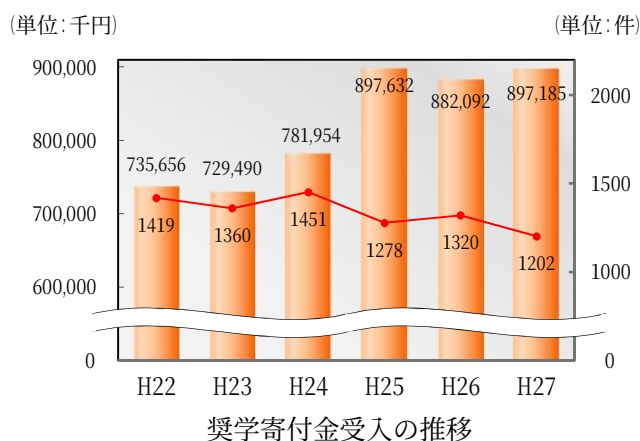
産官学連携・地域貢献について

外部資金の受入状況

◆ 平成27年度の外部資金受入状況は、以下の表のとおりです。平成27年度は各外部資金共に、受入金額が増加しております。今後も教育研究活動の充実・発展を目指し、地域産業に貢献できるよう努めてまいります。

外部資金比率	6.5%
＝ 外部資金(2,624,373千円) / 経常収益(40,430,285千円)	

※外部資金＝受託研究等収益・受託事業等収益・寄附金収益
26年度本学外部資金比率・・・6.2%



地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

事業名称	事業期間	H27年度受入額
ぎふ清流の国、地×知の拠点創成:地域にとけこむ大学	平成25～29年度	36,454千円
岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの共同育成	平成27～31年度	23,693千円

◆ 大学COC事業は、大学が地域を志向した教育・研究・地域貢献を進めることで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。岐阜大学では「次世代地域リーダーの育成」、「多様な人々が集い対話する『場』の設置」及び「地域志向学プロジェクトの推進」を取り組みの3つの柱として事業を推進しています。

また、平成27年9月には、新たにCOC+に採択されました。COC+は、若年者の地元定着と、地域産業の活性化に貢献できる人材の育成を目指す事業です。岐阜大学では、岐阜をフィールドに自治体や企業等と協働しながら、インターンシップを核とした教育プログラムの実施や、岐阜県及び愛知県内の大学と連携した共通の教育プログラムの実施によって、産業界ニーズにより適合した人材の育成、及び産官学共同研究を通じた事業拡大等による雇用創出を促進することに取り組んでいます。

こうした取り組みによって、岐阜大学は地域社会の活性化の中核的拠点として、地方創生の一翼を担います。

寄附講座・寄附研究部門

◆ 寄附講座や寄附研究部門とは大学や研究機関が、民間企業や行政組織などから教育・研究振興のために寄附された資金や人材を活用し、教育研究を行う制度です。本学においても、民間企業などからの寄附を有効に活用して設置運営し、教育研究の活性化を図っています。

平成27年度寄附講座・寄附研究部門一覧

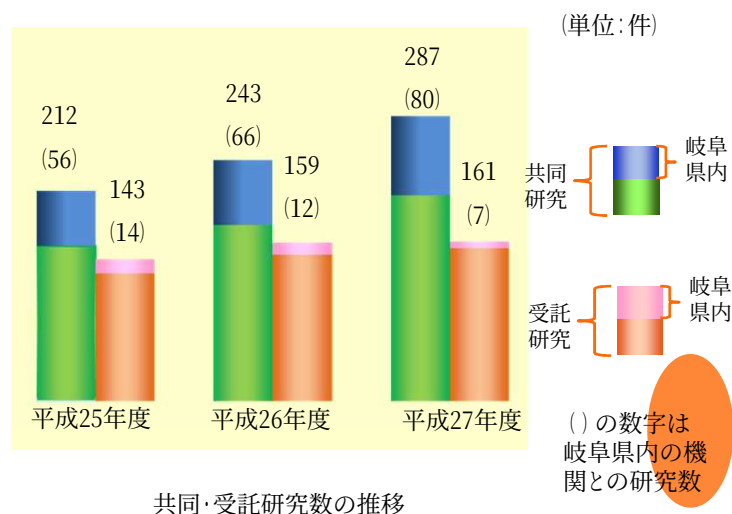
寄附講座・寄附研究部門名	金額	研究内容
乳腺・分子腫瘍学講座	20,000千円	乳がん検診システムとその精度管理及び乳がんの薬物療法等に関する研究
循環呼吸先端医学講座	30,000千円	食物と循環器疾患の関係を解明する基礎的および臨床的研究
がん先端医療開発学講座	20,000千円	がん治療に関する臨床研究の展開と体制の構築およびトランスレーショナルリサーチに関する研究
地域腫瘍学講座	30,000千円	岐阜市北部・山県・武儀・揖斐地域におけるがん死（消化管がん）撲滅に向けたシステム構築に関する研究
地域医療運動器医学講座	30,000千円	地域の地域医療をベースとした運動器疾患研究および医療ネットワークの構築、地域医療教育に関する研究
肝胆膵・がん集学的治療学講座	20,000千円	岐阜地域における肝胆膵領域の悪性腫瘍を中心とした癌集学的治療の推進
関節再建外科学先端医療講座	25,000千円	超長期耐用人工関節置換術のための臨床データ解析、技術開発、再生治療、育成システムの構築及びリハビリの普及
障がい児者医療学講座	25,000千円	携わる医師の育成、障がい児者医療のあり方についての研究や普及啓発など
慢性腎臓病（CKD）医療連携講座	30,000千円	県民の慢性腎臓病（CKD）の発症及び重症化の予防に向けた、県内保健医療連携体制の向上を図ることによる、本県におけるCKD対策の総合的推進
鳥獣対策研究部門	20,000千円	岐阜県における野生動物保護管理体制及び被害対策の課題と解決に関する調査研究 及び 地域の野生動物保護管理・被害対策を担う人材の育成に関する研究と実践
抗酸化研究部門	20,000千円	活性酸素種などによって引き起こされるさまざまな症状や病気の情報収集や解明、開発した抗酸化物質を中心にした動物実験や臨床研究を行う。

県内機関との産学官連携

◆ 本学では産官学融合の推進を目的として、研究推進・社会連携機構を中心に、共同・受託研究などの拡充を目指しております。

平成27年度に本学が民間企業等各機関で行った共同研究は287件であり、そのうち80件（約28％）を岐阜県内の機関と行っております。また、受託研究では161件のうち7件（約4％）を岐阜県内の機関と行っております。

今後も蓄積された大学の知を岐阜県を中心とした地域の皆様に還元することを通じて、地域の活性化に貢献してまいります。



地域連携事業

◆ 本学では、「独創的、先進的な研究とそれに裏打ちされた人材育成を行う中部地方に拠点を置いた中規模総合大学」として、地域社会からの信頼と期待に応える地域連携事業を推進するため、学内予算に「岐阜大学活性化経費（地域連携）」を設定しております。

「岐阜大学活性化経費（地域連携）」は、学生やNPO法人等と共同で取り組む事業も対象としております。本学の人的・物的資源を活用することにより、身近な、あるいは広域な地域社会と連携し、地域社会の活性化に資する組織的な取り組みを進めています。

平成27年度地域連携事業の採択状況

申請件数	採択件数	予算措置額
18件	6件	1,993千円

【採択例】
地域科学部
地域社会において自助・共助を促す減災方策の他地域展開促進

工学部
岐阜の魅力を継続するための学生主導型産学連携による新たなモデル

応用生物科学部
中山間地域の獣害対策を加速させる捕獲体制の構築

知的財産の積極的活用

◆ 大学の知的財産活用に対する理解の促進に努めるとともに、地元企業などへのアプローチに努め、特許料収入など知的財産収入の増加を目指しております。

岐阜大学における知的財産関連収入

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
特許権等実施許諾・譲渡等収入	6,208千円	5,269千円	19,494千円
件数	20件	22件	29件

附属施設について

動物病院

◆ 応用生物科学部附属動物病院は、獣医学の教育・研究・診療を実践する中部地区で唯一の施設です。近年の診療件数の増加に対応するため、またペットオーナーの求める高度な動物医療を提供するため、平成22年4月に新病棟とリニアック棟、同24年4月にMRI棟を増築しました。

動物種類別の診療件数（延べ）

伴侶動物	年度	犬	猫	その他	計
	25	7,238	1,239	1	8,478
	26	7,417	1,476	1	8,894
	27	7,664	1,294	2	8,960
産業動物	年度	牛	馬	緬・山羊	計
	25	123	3	3	129
	26	123	0	0	123
	27	154	2	4	160



○診療受付時間
月～金曜日 9:00～11:30
○休診日
土曜日・日曜日・祝日、
診療に支障がある日、
年末年始（12月28日～1月3日）

附属病院について

◆ 本院は、岐阜県下唯一の医学部附属病院、特定機能病院として先進・高度医療を担っており、がんや肝疾患、エイズなどの拠点病院に指定されております。

現在、医療施策として重点の置かれております5疾患。(がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、精神疾患)の治療と、5事業(救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療)に積極的に取り組んでおります。



病院の理念

あなたとの対話が創る信頼と安心の病院

基本方針

1. 患者中心のチーム医療を提供します。
2. 人間性豊かな医療人を育成します。
3. 先進医療の研究・開発・提供を実践します。
4. 地域との医療連携を強化します。

附属病院の財務状況

◆ 平成27事業年度の財務状況については、患者数の増加や化学療法件数増などにより附属病院収益が増加しています。業務損益は1,185百万円となっていますが、これには借入金の償還期間と借入金財源取得資産の減価償却期間の違いなどによる要因も含まれており、実質利益はほとんどありません。

また本院は平成16年6月の移転整備から12年が経過し、移転時に整備した医療機器等の更新時期が一斉に迎えております。大学病院の機能維持のため、設備投資にかかる財源確保が喫緊の課題となっています。

診療部門等の開設

◆ 医療技術の進歩や診療ニーズの変化に対応し、診療科間の連携を強化し、拠点病院、特定機能病院としての機能充実を推進するため、標ぼう診療科として「リハビリテーション科」を設置、中央診療施設として手術前業務を一括管理し、円滑で安全な医療を提供できるように「術前管理センター」を開設しました。

ドクターヘリ事業

◆ 本院は岐阜県のドクターヘリの基地となっています。出動件数は平成24年度350件、25年度406件、26年度451件、27年度390件と稼働しており、地域に対する高度救命医療の提供に貢献しています。



附属病院セグメント情報

(単位:千円)

区 分	金 額
教育経費	33,620
研究経費	221,047
診療経費	12,962,764
受託研究費等	181,316
人件費	8,266,379
一般管理費	158,620
財務費用	292,580
雑損	293
業務費用合計	22,116,618
運営費交付金収益	2,789,750
附属病院収益	19,580,616
受託研究等収益	181,163
補助金等収益	286,927
寄附金収益	52,751
その他	411,378
業務収益合計	23,302,584
業務損益	1,185,966

患者数

(単位:人)

区 分	26年度	27年度	増減率
入 院	185,745	193,526	4.1%
外 来	323,120	324,697	0.4%

平均在院日数

(単位:日)

区 分	26年度	27年度	増減
平均在院日数	12.87	12.41	-0.46

手術件数

(単位:件)

区 分	26年度	27年度	増減
手術件数	5,433	5,681	248

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015岐阜の開催

(公益財団法人日本対がん協会リレー・フォー・ライフ岐阜実行委員会主催)

◆ リレー・フォー・ライフとは、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティイベントです。本院ではがんセンターが中心となって支援を行っています。27年度は10月10～11日に開催され、多くの方に参加いただきました。



岐阜大学基金について

平成16年度の国立大学法人化以後、年々運営費交付金が削減されていく厳しい大学運営状況の下、地域貢献をはじめとした岐阜大学としての責任を果たすための更なる発展を目指し、流動的・機動的資金の確保を行うため、創立60周年を迎える平成21年6月より「岐阜大学基金」を設立いたしました。

(単位:千円)

岐阜大学基金により展開を行う事業概略

◆ 学生支援事業

奨学金制度の新設、留学生への奨学金制度の充実化、海外留学・交換留学の支援等

◆ 教育研究活動支援事業

教育研究機器整備、国際的な研究活動への支援、海外協定大学との教育研究交流支援等

◆ 地域貢献活動支援事業

地域企業との連携及び協力事業への支援、生涯学習機会への支援等

◆ キャンパス環境整備事業

講堂、体育館、武道館、グラウンド等の教育研究設備の整備等

上記の事業により、岐阜大学における学生支援、国際交流、特色ある研究活動及び地域貢献などの発展に努めて参ります。また、皆様方からご寄附いただいた寄附金につきましては、一部を「積立金」、また一部を「事業資金」として事業の充実を図ってまいります。

27年度実施事業	金額
応援奨学生	10,440
短期海外研修奨学金助成事業	2,940
私費外国人留学生学資援助金	1,800
短期留学(派遣)奨学金	1,450
大学院生を対象とした国際的人材育成のための海外研修奨学金	1,446
事務系職員グローバルマインド醸成研修	781



応援奨学生決定通知書を受け取る学生

税法上の優遇措置【所得控除】

ご寄附いただいた寄附金については、税法上の優遇措置があります。

寄附者が「個人」の場合、その年に支出した寄附金の額(所得の40%が限度)から2,000円を引いた額を、所得税の課税所得から控除することができます。

岐阜大学基金は教職員、卒業生の皆様、
そして地域の皆様など
多くの方々のご支援によって成り立ちます。

税額控除制度の対象となる就学支援基金を設置予定

平成28年度税制改正において、個人が一定の要件を満たした国立大学法人へ寄附金(学生等に対する修学の支援のための事業に充てられるものに限る。)を支出した場合の、税額控除の仕組みが創設されました。

本学では「岐阜大学基金」を充実させるため、新しい税額控除制度の対象となる要件(経済的理由により修学に困難がある学生等に対する、授業料減免事業、奨学金事業、留学生支援事業、TA・RA事業)を備えた就学支援基金を立ち上げることとしております。

※岐阜大学基金の詳細は本学HP(トップ>岐阜大学基金)にてご覧いただけます。
<http://www.gifu-u.ac.jp/fund/>

法人運営について

研究関連経費関係

◆ 研究関連経費は、研究経費（運営費交付金等）約17億円、受託研究費等約15億円、科学研究費補助金等約9億円の合計で約40億円となります。

研究関連経費全体では前年度と比べて、研究経費と科学研究費補助金等の獲得が減少したことにより、約5億8千万円の減となっており、「教員一人あたりの研究関連経費」としては、約477万円となっております。

教員一人あたりの研究関連経費	4,773千円
= 研究関連経費(4,052,862千円) / 教員数 (849人)	

26年度教員一人あたりの研究関連経費・・・5,551千円

研究関連経費

(単位: 千円)

	平成26年度	平成27年度	増減額
研究経費 (運営費交付金等)	1,870,462	1,667,761	△202,700
受託研究費等	1,235,548	1,470,596	235,048
科学研究費補助金等	1,529,295 (315,364)	914,504 (204,346)	△614,790 (△111,018)
合計	4,635,305	4,052,862	△582,443

※科学研究費補助金等には厚生労働省科学研究費補助金、研究助成事業費補助金等が含まれています。間接経費の金額を内数として()内に記載しています。

人件費関係

◆ 教育職員の職種毎（教授、准教授、講師及び助教）にポイント数を定め、従来の定数を基に各部局に割り当てたポイント総数内で職種や人数を部局長が決定できるポイント制度を導入し、弾力的、効率的に教員配置できる人事体制を行っております。

職種別人件費の実績額は右表のとおりです。総人件費改革の実行計画を踏まえ、定年退職者の補充抑制、事務の効率化による超過勤務手当の縮減などにより人件費節減を着実に努めていく必要があります。

人件費内訳

(単位: 千円)

			平成26年度	平成27年度	増減
役員 人件費	報酬・賞与		110,941	112,993	2,052
	退職手当		0	0	0
小計			110,941	112,993	2,052
教員 人件費	給料・ 賞与	常勤	7,993,139	8,289,799	296,660
		非常勤	1,663,279	1,366,436	△296,843
	退職 手当	常勤	556,307	632,296	75,989
		非常勤	0	0	0
小計			10,212,725	10,288,531	75,807
職員 人件費	給料・ 賞与	常勤	6,617,336	6,859,159	241,823
		非常勤	1,027,009	1,001,353	△25,656
	退職 手当	常勤	526,915	470,774	△56,140
		非常勤	0	0	0
小計			8,171,260	8,331,287	160,027
合計			18,494,926	18,732,812	237,886

人件費比率 49.3%

= 人件費 (18,732,812千円) / 業務費(37,941,773千円)

26年度人件費比率・・・49.3%

一般管理費関係

◆ 業務費に対する一般管理費率は、2.8%となっており、26年度の3.0%から減少しました。これは給与改定により人件費が増額したことと、受託研究費が増加したためです。今後も引き続き業務改善及び経費節減に努めていく必要があります。

一般管理費比率	2.8%
= 一般管理費 (1,078,178千円) / 業務費 (37,941,773千円)	

26年度一般管理費比率・・・3.0%

外部資金関係

◆ 岐阜大学の第2期中期目標において、「教育研究活動の活性化と水準を向上させるため、科学研究費をはじめとする外部資金を充実させる」、第3期中期目標において「自己収入を増加させ、安定した財政基盤を維持する」となっており、外部資金獲得を大学の重要な経営戦略の1つと捉えています。

外部資金獲得に向けてプロジェクトディレクター制度 (PD) や、学内の科研費審査経験者等による若手教員の科研費申請書作成指導を実施し、採択率向上に努めております。

また若手研究者に産官学連携コーディネーター、研究戦略オフィサー等による外部資金獲得の為の書類作成支援を行い、採択率向上に努めております。

政策経費関係

◆ 本経費は、学長・役員会主導型と公募型を併用し、事業実施部局に予算を配分します。対象事項には成果目標を設定し事業の成果を評価することで、更なる教育研究の質の向上を図っております。

※1 事業の重点化図り、将来ビジョンを実現するために必要な経費

※2 教育研究環境の充実などに資するための経費及び教育研究活動の基盤である施設・設備の老朽化・陳腐化に対応するための経費

平成27年度政策経費配分額一覧

(単位: 千円)

学長裁量経費 (※1)	学長裁量重点施策推進経費	314,743
	活性化経費 (教育)	6,600
	活性化経費 (科研費クラスアップ支援)	1,600
	活性化経費 (研究グループ形成支援)	18,700
	活性化経費 (若手研究支援)	15,600
	活性化経費 (地域活性化活動支援)	1,993
	活性化経費 (地域志向学プロジェクト支援)	4,010
	活性化経費 (人文社会系活動支援)	500
	活性化経費 (教育研究インセンティブ経費)	6,091
	活性化経費 (内地研究支援経費)	455
小 計		370,292
教育研究 基盤環境 整備費 (※2)	教育研究環境充実支援経費	222,470
	施設整備経費	165,000
	教育研究用設備更新等経費	30,960
	小 計	418,430
合 計		788,722

(参考情報)

国立大学法人における会計処理について



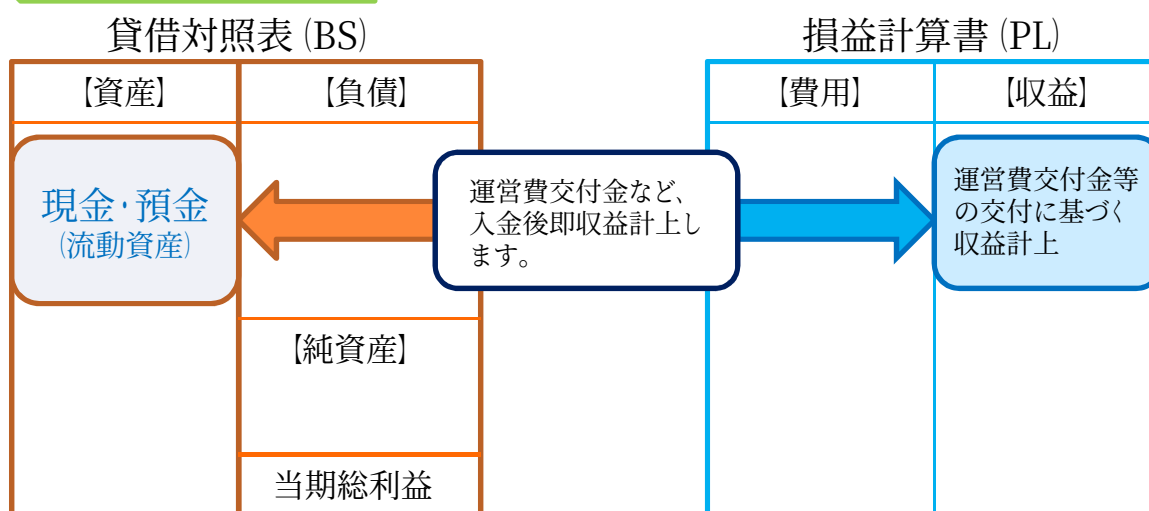
地域科学部

国立大学法人会計について

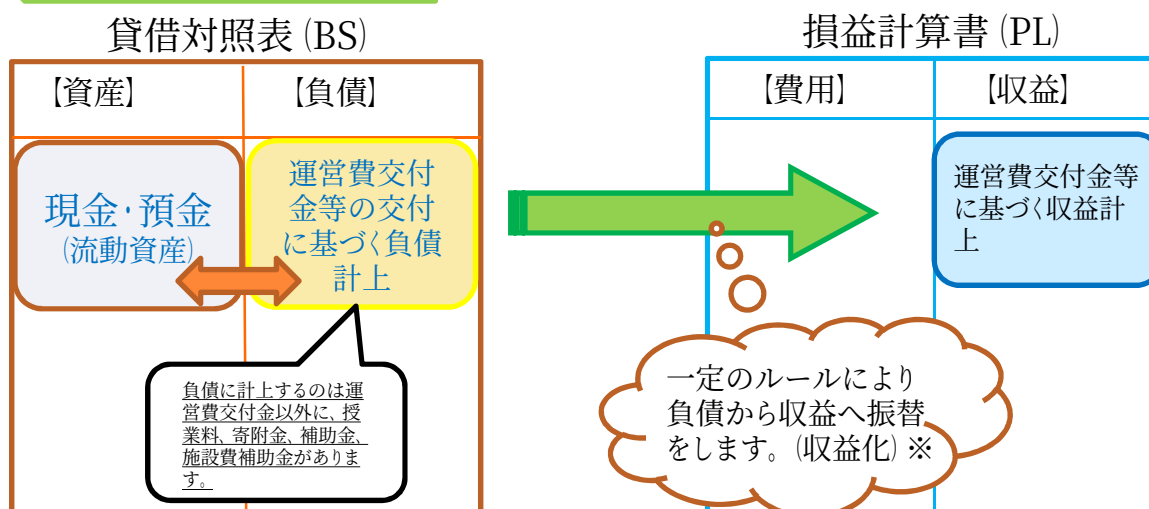
民間企業と異なり、国立大学法人は営利や独立採算を目的としないため、運営費交付金等の財源措置が行われる業務について通常の運営を行えば損益が均衡するなど、その特殊性を考慮した会計制度となっています。

○負債の認識及び収益計上

▲企業会計の処理



■国立大学法人の処理



企業会計では、運営費交付金等を受領した際に即収益計上をしますが、国立大学法人会計では、受領時点ではいったん負債（運営費交付金債務など）に計上し、業務運営の進行に対応させ収益に振り替える（収益化）を行っています。

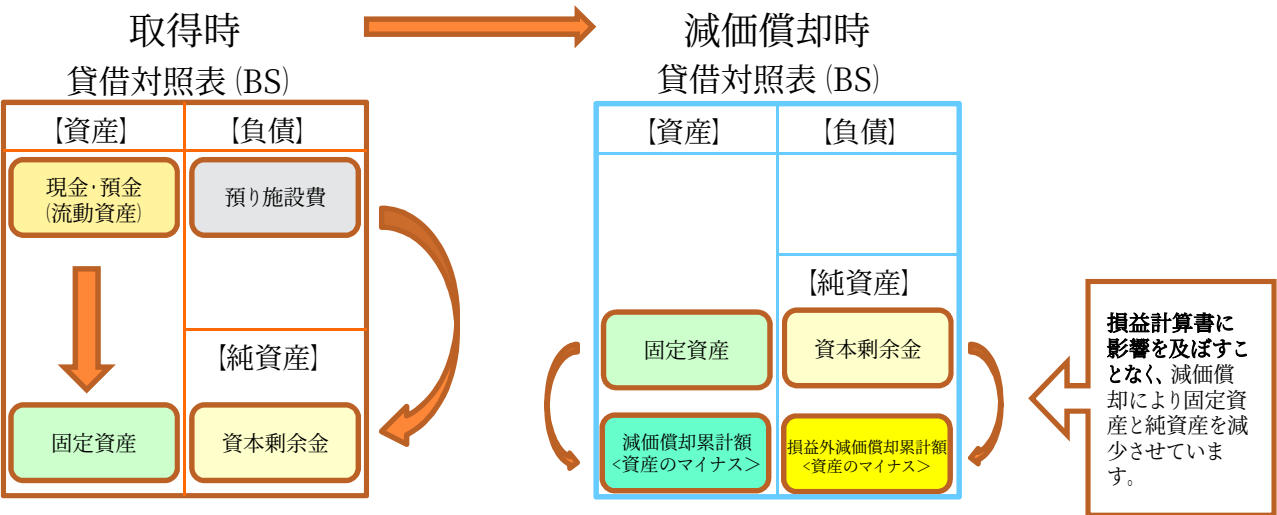
※収益化のルール

収益化には期間進行基準、費用進行基準、業務達成基準の3つの収益化の方法があり、財源等によりそれぞれを使い分けています。

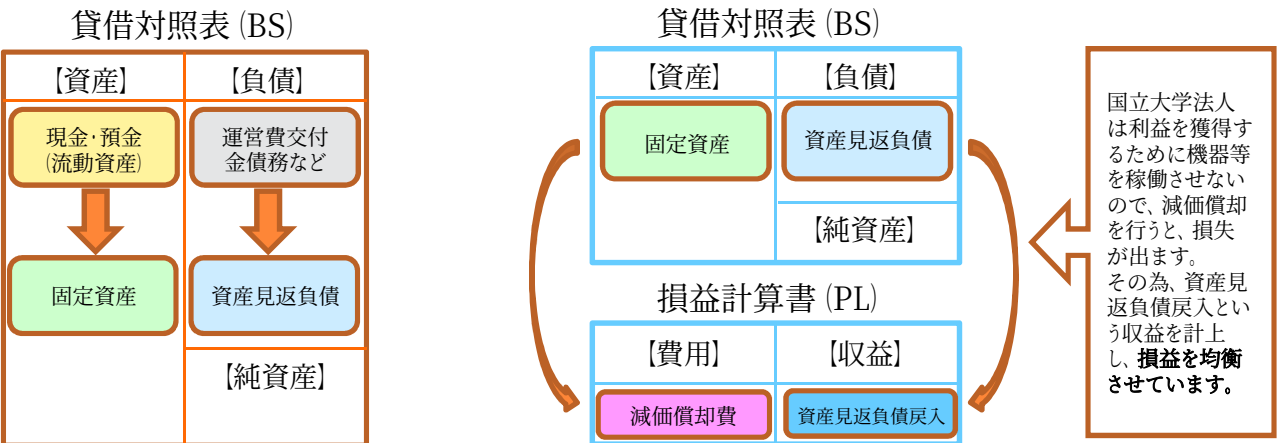
○固定資産の取得と減価償却

固定資産の取得と減価償却の処理は、次の3つに分類されます。

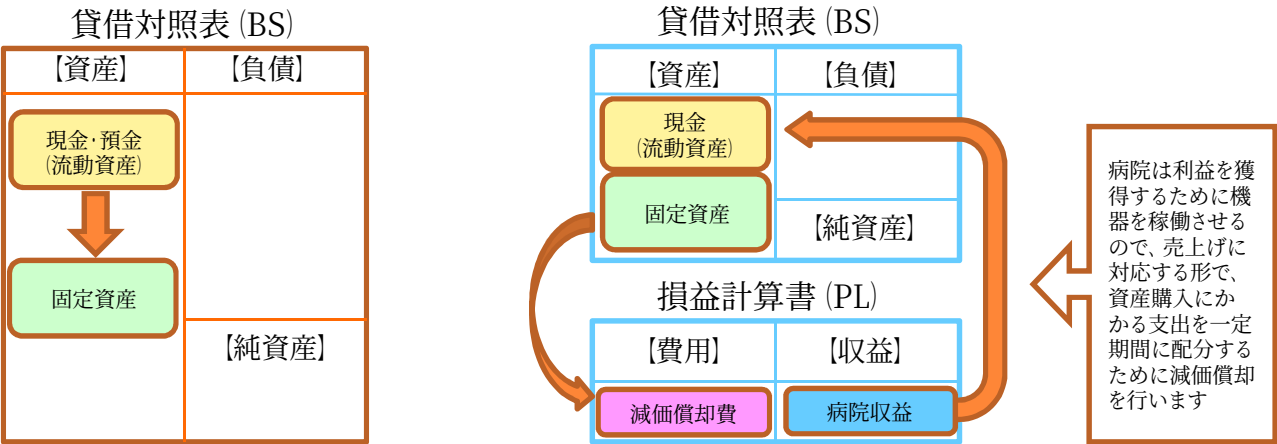
①大学の基盤的施設 (建物) 等【利益 (収入) の獲得がない資産】〔企業会計と異なる処理〕



②大学の教育研究設備 (器具備品) 等【利益 (収入) の獲得がない資産】〔企業会計と異なる処理〕



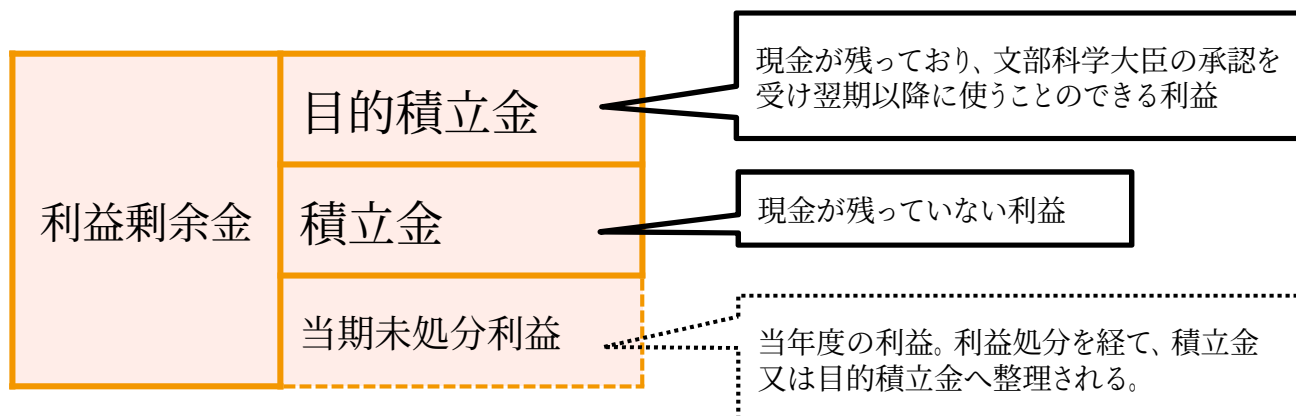
③附属病院の診療機器等【利益 (収入) の獲得がある資産】〔企業会計と同じ処理〕



国立大学法人の利益について

国立大学には、民間企業における株主のような営利目的の資本主が存在しないため、利益を配当等として外部に配分することはありません。

国立大学法人の利益剰余金(積立金等)は、現金が残っていない利益である**積立金**、現金が残っており、承認を受け翌期以降に使うことのできる利益である**目的積立金**、及び当期末処分利益とに分けられます。



◎目的積立金について(現金が残っている利益)

業務の効率化による費用削減や積極的な自己収入増加を図ったことにより、「現金が残っている」利益が発生します。

文部科学大臣の承認を受けた金額は、翌年度以降の教育研究診療を充実させるために、中期計画に記載された用途に従って使用することが認められています。

◎積立金について(現金が残っていない利益)

積立金は、目的積立金とは異なり「現金が残っていない」帳簿上の利益です。

積立金が発生する要因はいくつかありますが、その中から附属病院を持つ大学において発生する、借入金の返済期間と減価償却期間のずれにより生じる利益・損失について、仕組みを次ページでご説明いたします。

本学では、平成27年度における当期総利益(当期末処分利益)は、約10億6千万円となりましたが、これは全て現金が残っていない利益です。利益処分を経て、平成28年度中に積立金に計上される予定です。

なお、平成27年度は第2期中期目標期間の最終年度であるため、第2中期6年間の積立金の合計額約66億円は、文部科学大臣の承認を受けて、「前中期目標期間繰越積立金」として第3中期目標期間へ繰り越します。この66億円は、現金が残っていない利益の累積であるため、あくまで帳簿上のみの繰り越であり、66億円分の現金を積み立ててあるわけではありません。

附属病院に関する会計処理について

本学は平成16年度に新病院を開院する際に、国立大学財務・経営センターからの借入により整備しています。

借入金には病院収入により返済するため、病院収益の一部が毎年の返済に充てられることになります。一方、附属病院の建物等の資産を取得しますので、毎年減価償却費が発生します。

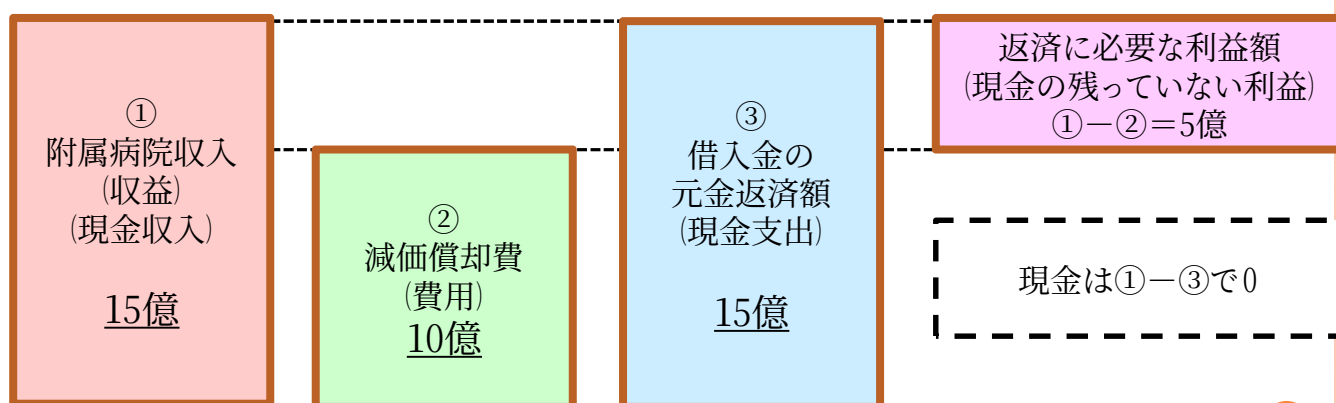
この際、借入金の返済期間と減価償却期間にずれが生じるため、利益・損失が生じます。以下の例では、1～5年目と26～30年目に損失が発生し、6～25年目に利益が発生していますが、いずれも現金の裏付けのない帳簿上の数値です。

【例】300億円を借り入れ病棟を建設した場合
 償還期間: 25年 (5年据置、20年償還) 減価償却: 30年 (毎年定額)

区分	1～5年	6～25年	26～30年	累計
病院収益 (=元金返済額)	0円	15億円/年	償還終了 0円	300億円
減価償却(費用)	10億円/年	10億円/年	10億円/年	300億円
損 益	▲10億円/年	5億円/年	▲10億円/年	±0



本学は現在、この期間にあたります。



※例示であり、本学の借入状況と一致するものではありません。

借入金を返済している国立大学附属病院では、財務構造上、多額の利益が計上されますが、借入金返済の現金支出があるため、資金に余裕があるわけではありません。

(文部科学省「国立大学法人の会計について」を基に作成)



本学の財務諸表につきましては官報及び本学ホームページ上の大学案内のページでご覧いただけます。

また、その他の財務に関する情報につきましては事業報告書でご覧いただけますので、併せてご覧ください。

URL: <http://www.gifu-u.ac.jp/>

財務レポート 2016

所在地 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

お問い合わせ 財務部財政課 TEL:058-293-2096

Mail: gjfi01010@jim.gifu-u.ac.jp

※本財務レポートをより充実した内容にしていくため、皆様の忌憚のないご意見をお待ちしております。